

第7章 今後の課題

(1) 広域的な交通状況把握のためのビッグデータ分析

首都圏の高速道路ネットワークの構築による都心部及び首都圏域の交通流動の変化について、トラカンデータや ETC データ、ETC2.0 プローブデータを用いて分析した結果、交通流動の変化はネットワーク変化による影響が大きい、圏央道の開通により、沿線地域の企業立地が増加し、地価・税収も増加していることなどが明らかとなった。

今後は、多様なデータを組み合わせた分析を行うことで、より多角的に交通状況を明らかにし、首都圏三環状の整備効果を整理することが考えられる。

(2) 局所的な交通課題抽出に際しての交通量等の取得

東京 2020 大会においては、道路交通だけでなく、鉄道などの公共交通機関も含めた交通需要調整の取組を行う予定となっている。また、大会関係者を安全かつ円滑に輸送するため、都心エリアの交通量を減らし、本線料金所での通行制限や、交通量に応じた入口閉鎖等の規制を段階的に実施することで、スムーズな大会関係者輸送を図るための交通環境を確保することとしている。

このため、AI カメラを活用した交通量の観測等によりこれらの実施効果と影響を把握することが重要である。

(3) 地域道路経済戦略研究会・関東地方研究会

地域経済・社会における課題を柔軟かつ強力で解決し、成長を支えていくためには、飛躍的な進化を遂げる情報通信技術や多様なビッグデータを最大限に利活用し、道路を賢く使う新たな道路政策に挑戦・実行していく必要がある。

これを踏まえ、道路空間の有効活用による地域経済活性化戦略と、これを実現するための社会実験・実装のあり方について、引き続き研究を進めていくとともに、本業務に関連した 3 環状道路ネットワーク効果の把握を行っていくことが重要である。